

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



10月の銅の概況及び11月の見通 (3)

予想レンジ

LMEセツル	10,500-11,000ドル	●
建 値	161万円-174.5万円	●
為 替	150円-155円	●
(1か月間TTM)		

■輸出入動向

◆輸 出

電気銅	-7.2%	6万2,910 t
スクラップ	+76.2%	3万6,137 t

◆輸 入

電気銅	-19%	239 t
スクラップ	+36.7%	3万1,719 t

電気銅が輸出入ともに減少した一方、スクラップは大幅に増加。特に輸出のスクラップは前年比+76.2%と大きく伸びた。

■見通し

◆自動車

販 売：前年同月比-2%~0%、月次では小幅プラスの可能性あり。

生 産：前年同月比0%~+3%、月次では+4%~+8%程度。

全体としては、需要側の抑制要因があるものの、季節性や期末商戦による反発・生産回復の動きが重なり、「マイナス幅縮小、もしくは横ばい」域での安定化を想定。

◆伸銅品生産

下期入りに伴い、自動車・半導体関連向けを中心に需要が本格回復すると見られる。生産量は5万8,000トン前後を想定。

上期の緩やかな回復基調から一段高い水準へ移行する見込み。

◆電 線

出荷量：51300トン（銅量ベース）

前年同月比：-4.2% 2カ月連続マイナス

2025年11月の電線生産（銅ベース）は、依然と

して前年割れが続く見込み。

住宅・建設需要の回復が遅れており、電販・民需向けが重石となる一方、電力向けや輸出分で下支え。

10月を底に年末工事需要の動きから12月以降にかけて下げ止まり・横ばい推移が期待される。

■スクラップ景況予想

2025年11月の国内銅スクラップ需給は、供給制約が残る中で需要堅調のため「ややタイト（引き締め）基調」。

■LME・為替予想

◆LME予想

出荷

●LME予想

11月のLME銅価格は、1トン=10,500~11,000ドルを想定。中国のインフラ・再エネ投資拡大に加え、米国の利下げ観測によるドル安が追い風となり、投機資金も流入。南米鉱山の供給不安や在庫低水準が続くことで、需給逼迫が意識され上昇基調を維持する見通し。

●為替予想 150円~155円

FRBの利下げペースが鈍化し、米金利が高止まりする一方、日銀の緩和姿勢は継続。金利差が依然として大きく、円売り・ドル買いが優勢となる見通し。加えて原油高による貿易収支悪化や国内資金の海外流出も円安圧力に。投資資金の流入が続けば一時155円台を試す展開もあり得る。

銅建値に関しては、1610-1745円程度と予測。

（「10月の銅の概況及び11月の見通し」おわり）

減摩合金・各種ハンダ
鉛滓・錫滓の精錬

中川金属精錬所

代表者 中川 譲 治

〒556-0022 大阪市浪速区桜川 1-6-22

TEL 06-6561-3759(代表)